

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300089
法人名	医療法人 社団誠仁会
事業所名	グループホームめおといわ (ユニット名 はなみずき I)
所在地	福岡市城南区松山2丁目8番3号
自己評価作成日	平成25年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がスタッフにさりげなく見守られている家庭的な雰囲気の中で生活が送れるように支援、職員は研修に参加し、認知症について正しく理解ができるように努めている
 ・地域との結びつきをつくり、地域で貢献できること、職員、入居者が少しでも地域活動への参加するように心がけている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の高齢化に伴った強いニーズのもと、金山団地と住宅地に挟まれた一角の「地域包括ケアセンター松山」内のグループホームとして平成24年4月に開設した事業所である。敷地内には松山診療所・訪問介護・訪問看護・小規模多機能型居宅・デイサービスがあり、グループホームめおといわ「はなみづき」は建物の2階に位置している。管理者は、利用者を「自分の親と思いなさい」という想いで理念をつくり、職員は、理念に沿って、一人ひとり利用者の身になったケアの実践に取り組んでいる。特に全職員の明るく活き活きた表情が印象的である。職員、利用者とも近隣の住民が多く、開設10ヶ月と新しい事業所ではあるが、地域住民や家族との交流もさかんで、地域に愛されているホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年2月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人が入居者様の身になって介護サービスを提供する」理念として、出勤時唱え、ケアの方向性が同じになるように事業者内掲示している	法人の理事長の思いに賛同した管理者二人が開設にあたって作った理念である。「住み慣れた地域の中で、ありのままの自分として生活できるよう支援する」を基本方針にしている。常に管理者たちは理念を思い起こすように職員に伝え、職員も常に利用者の身になって考えながら、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の夏祭り、小学校バザー等参加、日々の近隣の散歩、買い物など地域の方々と顔なじみの関係を築いている	開設1年に満たないが、自治会にも加入しており、利用者も職員も地域の住民が多く、地域との交流は円滑に進みつつある。昨年事業所の夏祭りを開催した際には、民生委員から紹介してもらって地域の方から踊りの指導を受け、交流を深めた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症理解や支援、実践している知識を困ったことがある時、積極的に相談応じ、理解を深める機会を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。近隣のグループホームにも声掛け、情報交換を行ない、地域との交流、支援も強まっている	運営推進会議は、自治会長、民生委員、家族や利用者の他、地域包括支援センター職員や近隣のグループホームの管理者等、毎回、20名以上の参加がある。事業所からの連絡の他、ボランティア登録制度の導入等の助言も受け実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、その都度電話で相談や確認を行っている	開設準備期より、不明な事は積極的に市町村に電話で聞き、開設後はレクリエーションの研修機関の紹介をしてもらうこともあった。地域包括支援センターにも2ヶ月に1回は出向いて協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修や勉強会を積極的に行い、正しく理解し、身体拘束、言葉による抑制をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人内の研修を実施し、職員は身体拘束禁止の内容について理解している。また言葉による抑制である「待って」「動かないでね」を使わないケアを実践中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修や勉強会に参加、伝達講習を行い、全職員が理解できるように、取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修や勉強会に参加でき、全職員が理解できるような環境作りに、取り組んでいる	権利擁護について外部研修の参加を募ったりして学ぶ機会を提供しているが、現状では職員が十分に理解するには至っていない。利用者や家族からの相談を受けたり、情報提供ができる体制づくりに向けて取り組んでいるところである。	利用者の権利を守る制度であり、全職員の学ぶ機会が望まれる。また、利用者や家族への制度の周知についても、情報提供の工夫について取り組むことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際ご家族に契約書・重要事項説明書を説明、入退去の時に不安を少しでも軽減するため、相談やアドバイスを行い、十分な理解、納得が得られるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族の希望や意見の言いやすい関係を作っている。ご家族からのお声を聞いたり、不満がないかをお尋ね、ケに反映する体制を作っている	来訪される家族も多く、ホームでの様子等の話をする中で家族や利用者が要望を言いやすい関係をつくることに努めている。開設して間もないこともあり、運営に関する意見は、まだ出ていないが、居室のベッドの位置等の要望にはすぐに対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて運営上の問題点を挙げてもらっている、すぐに改善できる点はその場で決定しその後は状況を見ながら改善を行っている	防災・給食・安全衛生・教育等、法人内で複数の委員会があり、職員はいずれかの委員に属している。それぞれの委員会で職員に対するアンケートを実施し、研修に取り上げたいテーマの要望等を出して、実施に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	六ヶ月面接(個人)において困っていること、これからの目標など聞く機会を設けている。産休、子育て期間中の職員に対して柔軟なフォローができています		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権の尊重に努め公平を期している 職員の採用に関しては性別年齢による排除はなく、人柄、性格、グループホームに向いているか等を考慮している。	採用にあたっては、性別や年齢による制限はなく、適性を重視し、近隣住民から多く採用している。現在20歳代から60歳代までの全職員が正規職員として働いており、資格取得のための助言や配慮もなされている。また、職員の得意とすることで力が発揮でき生き生きと勤務している。障害者就労支援事業の取り組みもやっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常に理念に沿ったケアを心がけ利用者の人権を尊重することを指導している。言葉使い、接し方にも反映するよう心がけている。勉強会、研修にも積極的に参加している	管理者は、利用者の人権を守る為の接遇研修に特に力をいれて行っている。職員が日々、「自分だったらどう思うか」と言うことを考えながら、ケアが実践できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く確保しており、一人一人の力量に応じた育成をしており、外部研修は勤務扱いにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的情報交換会で同業者との交流を図り、ネットワーク環境の構築を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体面の課題や生活歴からの情報を加味し、ケアの状態など客観的に捉え不安や要望に応えられるように、努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面会を行い、困っていることや不安なことを聞き、その上私達ができることを説明しご家族の協力、支援の関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のお話を聞き、サービスを受けていた、事業所や病院からの情報提供を元にサービス支援を見極め、説明、協力をお願いできることはお願いして、支援を決めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけを行い、コミュニケーション機会を多く持ち、興味のある物を見つけ一緒に楽しむ時間を多く作り、入居者の視点立ち、支援を行っている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会やイベント参加を声掛け、家族と共に一緒に、支えていく関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に商店街に行ったり、郵便局を散歩コースに入れるなどして馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している	地域住民の利用者が大多数であるため、馴染みの場所である近所の郵便局やスーパー、神社や公園に毎日のように散歩に出かけるようにしている。近隣住民や以前の知人と話す機会づくりに取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	距離を置いたり、孤立させないように一人一人に話す機会を多く持ち、スタッフが間に入り、興味のある物を見つけ一緒に楽しむ時間を多く作るようにしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれた方の面会を兼ねて入居者さんと一緒に訪問に行ったり、年賀状を送るなど関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度カンファレンスを行いスタッフそれぞれが日常の生活の中で知り得た、情報を本人の意向に添えるよう話し合い、必要に応じてプランに追加している	日常の中での会話や表情から思いを家族に伝え、またそのことに関して家族から再度聞いたりして、利用者一人ひとりの思いを汲み取っている。困難な方には言葉かけの反応や表情、行動から、家族の意見を聞いて本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や事業所から、今までのサービス内容やその方の生活歴や暮らしなど生活全般情報をわかる範囲で聞き、情報把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックなど健康管理や本人の訴え及びスタッフの所見をもとに現状の把握、心身状態を確認、適した支援を行っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスでモニタリング、スタッフの意見を聞き、その方にあったプランができる様、サービスプランを作成している	発言しやすい雰囲気の中で話し合いを行い、計画作成担当者が素案を作成する。同一敷地内の診療所主治医に意見をタイムリーに聞いたり、デイサービスの理学療法士に相談をしたりして、本人や家族の了解のもと決定している。モニタリングを1月に1回、短期目標見直しは3ヶ月に1回行い、手書きでニーズ追加をしている。更に6ヶ月毎と状況変化時に随時見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに従った記録になるよう、介護記録を行い、変化時は介護計画の見直し、プランの変更し柔軟に対応、支援を行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化時は近隣の散歩、家族との急な外泊・外出・入院の準備などその時々柔軟な対応を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、地域の方が来所でき、一緒に楽しむことができるよう支援し、利用者の方々と地域の方に受けられるよう、一助している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の松山診療所が同法人である事、連携の病院であることを説明、家族より安心につながる契約している 2週間に1度訪問診療を受けている	敷地内の同法人診療所をかかりつけ医としていた人がホームを利用したり、利用開始後、往診があることから本人・家族の意思で変更し、全員が同じかかりつけ医である。歯科医も往診がある。家族の訪問時に結果報告をしている。その他の科目・耳鼻科等については家族が連れていき、お互いに情報を共有して適切な健康管理ができるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で築きや身体、心理状況を職場内の看護師に報告、かかりつけ医との相談、連携が図れています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護添書を準備、生活状況など詳細に記入。入院中、面会を兼ねて地域連携室や病棟看護師長面会、情報の交流に努め、早期に退院できるように関係づくりを行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時家族より、本人の思い、考えを聴き、方針を確認している。その時期が来たときは再度確認、方針を共有する様にしている	敷地内にかかりつけ医の診療所があり、ホーム職員の中には看護師が4名勤務しており、重度化や終末期ケアの対応をする方針である。入居時に説明しており、本人・家族も安心されている。設1年未満であり、看とりの経験はないが、事業所内でも看とりの研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的実施、緊急時の対応、応急手当の方法を実践に学んで行っている。連絡網を作成し早期対応ができるようになっている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2/年城南消防署からの指導を基本として独自のマニュアル(昼間・夜間)の訓練を行っている、役割は決めており動ける体制は作っている 運営推進会議をとうしてお願いしている	11月と2月に消防署立ち会いの下、夜間想定避難訓練を実施している。消防署直結の火災通報ボタンを押すと3分で消防車が来るので、それまでに職員ができること、すること、初期消火等しっかり指導を受けている。スプリンクラーを設置している。今後、地域の参加協力の依頼を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本として声かけの時、言葉使い、適度な距離感を保ち、入居者のペースに応じた対応を行っている	支援する時、“してあげている”という意識を持たないこと、それに類する言葉使いに留意している。利用者がトイレ使用時、様子が分かるように引き戸を少しだけ開いているが、本人の自尊心や羞恥心を傷つけないように配慮した対応を行っている。個人情報に関しての管理は徹底して行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思決定、表現を尊重し、話しやすいように近づき目線まで腰を落として、意思決定を確認して支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを優先して、後回しでも良いものは時間、日にちを変えて支援、無理はせず希望にそって支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着替えの時気候に合ったものを選んだり、洗面所で口腔ケアや整容を行っている。髪型や留めゴムを変えたり、イベントの時は化粧したり、外出着に着替えるなどいつもと違ったおしゃれの支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時、落ち着いた曲を流すようにしており、その人の力に合わせ一緒に盛りつけをしたり、食器の片付けなど、無理なく出来る範囲で一緒に行っている	食事はケータリングで、職員が味付け等に介入している。時には同じ材料でもできたものがユニットによって異なることもある。ちょっとした食べたい物は店で購入して提供している。誕生日ケーキや土・日のおやつは利用者と一緒に作っている。音楽の流れる中、職員と一緒に会話を楽しみながら同じものを食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食材の形態を個別に対応、おやつやお茶などで補食、テーブルに職員も一緒に座り、状況を見ながら声かけや促しを行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、自分で出来る人は見守り、確認を行い、できない方は支援を行っており、必要時は訪問歯科と連携を取っており、アドバイスもいただいている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況や尿意を確認しながら、介助、支援、排泄シートに記録を残し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている、自分で行かれる方は声かけ、見守り、確認を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握をしたり、利用者の排泄前の行動や仕草の変化を把握して誘導したりして、一人ひとりに応じた対応を行っている。オムツの人がリハビリパンツや布パンツになったり、自室でのポータブルトイレ使用者がトイレを使用するようになったりしたことがあり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自宅からの予防でヨーグルトを食べていた方については引き続き継続しており、排泄のシートを確認しながら、水分の促し・ウォシュレット利用・運動への働きかけなど予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでもらうために声掛けの工夫やタイミングをみて入浴支援を行っている、拒否があるときは曜日を変更して提供支援をしている。	少し広めの浴室にも暖房設備があり、寒くないように予め暖かくしておくなどの配慮をしている。基本的には週2回であるが、毎日誰かが入るので必要時はいつでも入浴可能である。入浴を嫌がられる場合は、無理強いすることなく、気持ちを大切にしながら対応したり、足浴をしてもらったりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ソファで居眠りされる方や居室で休んでもらうなど個別の支援を行っている、昼夜逆転しないよう、生活リズムを整える援助をしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時日付、名前を声に出して確認、変更がある時は申し送り等伝達、薬の効果、副作用については訪問診療に医師に確認、報告を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことの情報を集め、その力を発揮できる場を作る事でその人の自身に繋がるような支援をしている、季節に応じた外出レクリエーション役割として食器洗い・洗濯たたみ等職員と一緒にしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日、短時間の散歩に出かけたり、屋上で過ごすようにしている、帰宅願望のある方には家族に伝え外出の機会をお願いしている	近隣には公園、幼稚園、神社があり、坂道ではあるが、ゆっくり30分ほど散歩し、幼稚園児や出会う人と挨拶を交わしたり、スーパーマーケットへお買い物に出かけたりしている。また、季節の花を見にドライブに出かけることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かることなく、家族の協力の下必要な物に関しては持参してもらったり、スーパーでの買い物するとき事業所から立替となっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合、職員が取りつぎ、本人に受話器を渡し、お話ができるように支援している。ハガキを家族より預かっており、希望時渡している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダにはプランターを置き、リビングに季節花を飾ったり、壁に共同作業の時節飾りなど掲示し、季節を楽しむ工夫をしている。	食堂兼リビングは広くゆったりとしたスペースで、利用者が自然と集まってくるような雰囲気がある。他の共用空間において不快な刺激は一切なく、また、ベランダにはプランターが見えて、季節感が味わえ、居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル・ソファー・一人がけソファーなど配置しており、好きな場所の好きな椅子に座れるよう配置している 気の合った者同士が近くに座ったり、ストレスが感じにくいように配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだものや見慣れたものを居室に持って来てもらえるように協力をお願いしている	居室にはタンス・椅子・時計・帽子・化粧品や乳液等々、思い思いの物を持ち込んでいる。入居前の自室での状態を再現するようにしている方もおられ、一人ひとり個性ある生活空間になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室まで段差がなく壁には手すりを設置、居室ネームプレートをわかりやすく表示、ドアも横開きになってトイレについても居室に近いところに設置しており、わかりやすくしている		